

水球競技速報用紙

ゲーム NO. _____	会場 静岡県立水泳場
審判 1 _____	審判 2 _____
帽子の色 [_____]	帽子の色 [_____]
_____	_____
	E X
	P T
	-
戦評	
<p>鳥取は今中・新玉にエースの前川がからみチャンスメイク、基本に忠実な展開で様子をうかがう。</p> <p>京都は早い当たりのプレスディフェンスからカウンター、セットからのクロススクリーンで機先を制しグングン前に攻め入ってくる。これで退水を誘発して角谷・渡邊らが確実にゲットしリードを奪うと、2 p にもダブルチームで中盤のボールを奪ってのカウンターなどでゲームを支配し、渡邊・筈井・白崎が得点し前半で6点のリードを得る。</p> <p>鳥取は京都のシステマチックなディフェンスに思うようにパスが回らず防戦に回ることが多くなる。G K 河上が再三ファインセーブを見せるが、京都の早いパス回しからのコンビネーションプレーに翻弄されこの流れを食い止めるには至らなかった。それでも3 p 2'47"には今中がゴール正面でシュートをねじ込み1点目を奪い、昨年優勝チームの意地を見せる。</p> <p>最終ピリオドになると鳥取のスタミナが盛り返し互角の攻防となる。5'03"にはG K 河上のファインセーブのタイミングをエースの前川がカウンターに結びつけノーマークとなり、ゴール正面でG K をかわしてゲットし2点目を奪うと、逆転に向け必死にゴールを目指すが、京都の守りも堅くゴールネットを揺らすことができない。逆に京都は2'39"榎本がだめ押しのバウンドシュートを決めて最後まで鳥取の追隨を許さなかった。</p> <p>京都は8月のインターハイで実力がありながら初戦敗退した雪辱を果たし好スタートを切った。順位リーグでの活躍が楽しみである。鳥取は昨年の優勝チームから主力が抜け、経験不足の状況から鍛えては来たものの、総合力で及ばなかったものの、攻守にわたる前川の好プレーとG K 河上の好守が光った。</p>	
記録者	南部 健

水球競技速報用紙

ゲーム NO. _____	会場 静岡県立水泳場
審判 1 _____	審判 2 _____
帽子の色 [_____]	帽子の色 [_____]
_____	_____
	E X
	P T
	-
<p>戦評： 大会初日第 2 試合は、鹿児島県対山形県の一戦。お互い鹿児島南、山形工業の単独チームで、双方高い実力を有しており、手に汗握る大接戦が期待される。</p> <p>1 P、両者ともディフェンス重視。鹿児島の厳しいプレスディフェンスで山形はシュートまでなかなかいけない。一方山形は鹿児島エースの西柊をケアし、要所でゴール前をサポートする組織的な粘りの守りで対抗する。先行したのは鹿児島、西柊が上からのシュートをねじ込み先取点をとる。一方の山形も少ないカウンターチャンスで 3 番安達がよくマークを引付け、中央の庄司へ繋ぎゴール。イーブンとし 1 Pを終了。</p> <p>2 Pも開始早々西柊がゴール前から決めた。その後山形も庄司が最後まで諦めず、フローターポジションで押し込みゴール。2 Pもイーブン、累計 2 - 2 の同点である。山形は動きの中から幾つかの退水を誘発させチャンスを作るが、これを活かせなかった。</p> <p>3 Pも終始勢いよく攻め込む鹿児島。しかし山形の GK 小玉・センターバック中嶋を中心とした落ち着いた守りの前で、なかなかペースに乗ることができない。鹿児島ベンチは 2 分経過時点で TO を取得し、いったん流れをきり試合のペースを自チームへ持ってこようとする。その後柚木がミドルを決め、鹿児島は、一気に勢いに乗るべく怒涛のカウンターをかけるも、山形 GK 小玉の好セーブ等もでて得点に繋がられない。そうした中、山形は流れの中でペナルティーを確実に庄司が決めたまたまた追いつく。鹿児島にとっては、嫌な展開であるが、これを振るきるべく、この直後 3 P 終了直前に鹿児島柚木がミドルを決め、3 P 累計 4 - 3 で鹿児島。勝負の行方は、4 P へ・・・。4 P は、開始早々、山形庄司がゴール。初めての先取点でまたまた振り出しに戻す。鹿児島も維持で振り切ろうと、サイドからのセンターリングをゴール前で陣取るキャプテン西柊が高い位置でのワンタッチシュートを決めた。ここから残された試合時間は約 5 分。この時間の使い方勝敗を分けるわけであるが、山形が勝利の女神を引き寄せることとなる。地道なオーソドックスな攻めの中から退水を誘発させ、パワープレイを着実に中嶋、菅原（社大）がゴールし 2 点をゲット。この時点 6 - 5 で山形が逆転。更にはカウンターをかけた鹿児島のターンオーバーからの逆チャンスを庄司が決め、残り時間 2 0 秒で 2 点リードしほぼ試合を決めた。最後は意地から鹿児島は退水を取り、キャプテン丸山がゴールゲットするも、時はすでに遅し。山形が接戦をものにした。予想通りの大接戦の好ゲーム j、両チームに拍手を送る。</p>	
記録者	峰岸 克行

水球競技速報用紙

ゲーム NO. 3 _____	会場 静岡県立水泳場
審判 1 _____	審判 2 _____
帽子の色 [_____]	帽子の色 [_____]
_____	_____
	E X
	P T
	-
	-
	-
戦評	
<p>三重は中盤からの早い当たりでボールを奪うと状況判断の良い飛び出しでカウンターに結びつけ、2 : 1 や 3 : 2 のノーマークから確実にシュートを決め 1 p から 7 点の大量リードを奪う。</p> <p>香川は三重のスピードに翻弄されながらも、G K 矢野が好セービングを連発し奮闘する。攻めに関してもキャプテンの増田にボールを集め彼のシュート力にかけたいところであるが、なかなか良いポジションでパスを受けることが出来ない。</p> <p>同じ状況が続き 2 p 終了までに 1 2 点をあげた三重は、徐々にメンバーチェンジをする余裕を見せ完全にゲームの主導権を握る。石川や菅野のスピードあるプレーとコーナーをついたスピードシュートが次々と決まり、3 p には何と 1 3 点を加え一方的な展開となった。</p> <p>こうなると香川は何とかして一矢を報いたいところ。4 p 5'12" カットインドライブから退水をもぎ取り、鎌倉（光）が左サイドからゴールし待望の 1 点を得る。その後も G K 矢野の好プレー、乃村からの前線へのパス供給が光ったものの力及ばず、三重の大量リードのままゲーム終了となった。</p> <p>三重は 8 月下旬におこなわれた全国 J O C カップで小学生チームが初優勝し、この子らの目標にもなるようにとの思いから優勝への意欲満々であり、こういう意識がプレーの随所に見られこの大量得点に結びついたと思われる。</p> <p>香川も最後までゲームを投げずに攻防し、増田キャプテンはじめ、井上・高橋・鎌倉（光）の 3 年生中心に良く戦い抜いた。まだ若いチーム編成であるのでこの経験を生かして今後の活動に活かしてもらいたい。</p>	
記録者	南 部 健

水球競技速報用紙

ゲーム NO. _____	会場 静岡県立水泳場
審判 1 _____	審判 2 _____
帽子の色 [_____]	帽子の色 [_____]
_____	_____
	E X
	P T
	-
<p>戦評： 第 4 試合は、群馬県対福岡県の対戦。両者ともに実力ある、全員攻撃・全員防御をモットーとした、似た水球を志向する。群馬、福岡双方とも本年長崎インターハイで優勝の前橋商業、3 位入賞の福岡工業の選手が中心に構成されており、レベルの高い試合が期待できる。</p> <p>1 P 先取点は、福岡。開始早々、2 年生山方がゴール前で綺麗な寝返りシュートで氣勢を上げる。群馬はキャプテン志賀・柳瀬中心に動きのある攻撃でチャンスを作ろうとするが、これを福岡は、既に織り込み済みの戦術で、両者を注意深くマークし群馬の責めを封じ込む。それを跳ね返し、群馬は、柳瀬が粘り強くマークをかわし 1 点を返す。更に 1 P 終了前 1 分、福岡は退水をゲット。パワープレイからキャプテン谷川が上から決め、1 P を終え、2 - 1 で福岡リード。</p> <p>2 P 開始 1 分で、群馬は退水のチャンスを柳瀬がねじ込み試合を振り出しに戻すと、カウンターの流れの中から中澤が退水を獲得。リターンパスを受け自らゴール。2 P 累計 3 - 2 で群馬が取り返した。福岡は再三チャンスをつくるが、最後の詰めが上手く決まらず得点に結びつかない。しかしながら、群馬も安泰とはいえず、福岡の粘り強いディフェンスの前にミスもでており、後半は我慢し、自分たちのペースを掴むことが課題となる。</p> <p>3 P 開始 1 分で、福岡山方がゴール前約 5 m と高い位置、且つスペースが広い状況下で、これを活かしてディフェンスをかわした「技あり」ループシュートを決める。その後福岡は退水を獲得しすかさず TO を取得、落ち着いてパワープレイを口石が決める。更に山方がこの試合 3 点目をゲット。このピリオド一気に 3 点連取。その後群馬もキャプテン志賀が、ミドルを決め 1 点返す。3 P は累計で 5 - 4、福岡 1 点のリードで再逆転。</p> <p>4 P は、主導権を握ろうと両者ぎりぎりの攻防が続く。試合が動いたのはラスト 1 分 30 秒、群馬佐藤がゴール左コーナーヘミドルシュートを決め、このまま終了。延長戦へ。延長戦は、本大会ルールで、1 点を先取した方が勝者となる。先にチャンスを掴んだのは、群馬、積極的なディフェンスからターンオーバーを誘い、退水 TO を取得。しかし残念ながらシュートは成功せず。この直後、攻防のきり返しで逆に福岡が退水 TO を取得。パワープレイで関が、右ポスト下内側をかすめゴールゲット。福岡が接戦を制した。</p>	
記録者	峰岸 克行

水球競技速報用紙

ゲーム NO . 5 _____	会場 <u>静 岡 県 立 水 泳 場</u>
審判 1 _____	審判 2 _____
帽子の色 [_____]	帽子の色 [_____]
_____	_____
	E X
	P T
<p>戦評</p> <p>両者第 1 攻防からカラーを見せる。石川は力強いカットインから強引に同サイドでボールをつなく、これはかなり迫力がある。これをしのいだ埼玉はカウンターから相手ディフェンスを押し込んだところで小山内が GK の虚をついたうまい 10 m ロングシュートで先制する。得意のフリーな発想が功を奏す。石川もセンターからカットインした西谷がゴール前まで持ち込みバックシュートでゲット。ディフェンスも全員が自軍ゾーンに良く戻り、中盤・ゴール前と良くドロップバックしボールをスチールし、接戦の様相を呈する。</p> <p>この張りつめた緊張感も埼玉のエース小山内がゴール前の得意なポジションで 2 得点し、埼玉の持ち味であるフリーオフェンスが徐々に機能し始める。石川の東が相手の早すぎるカウンター抜けにノーマークとなり、落ち着いたミドルシュートで 2 点目をゲットした。しかしそれ以降も徐々に攻防のスピードがアップする埼玉は、ノーマークチャンスから GK を翻弄するパス回しで大宮・小山内などが次々と得点、2 p までに 7 - 2 とし、さらに 3 p には 5 点を加え相手を 0 封。1 2 - 2 として埼玉リズムに拍車をかける。</p> <p>石川は GK 市野のセービングや早いドロップバックも序盤のような鋭さが見られない。何とか流れを引き戻したいところ、4 p 開始直後の攻防時に退水が出てすかさず T O で集中する。しかしこれも実らず、3'34" 相手のシュートミスから得た逆カウンターで村山が得点したのが精一杯であった。</p> <p>埼玉は来年の地元国体を控えている。3 年生主体の今回のチーム編成で是非今大会に好成績を残しシード件を確保したいところである。今回も 1 3 名のパフォーマンスを全て使い切る作戦で上位を目指す。石川は、スタミナのある序盤は全く互角の攻防を見せたが、埼玉の総合力に屈した形となった。</p>	
記録者	南 部 健

水球競技速報用紙

ゲーム NO. _____	会場 <u>静岡県立水泳場</u>
審判 1 _____	審判 2 _____
帽子の色 [_____]	帽子の色 [_____]
_____	_____
	E X
	P T
	-
<p>戦評：第 6 試合は、地元静岡県の登場。静岡は、県下有数の進学校である磐田南、掛川西、磐田西の混成チーム。本年度は、本国体を第一目標に設定し、学校間の枠を越えて強化に取り組んできた由。健闘を期待したい。一方の東京都は、明大中野、城北、武蔵の混成チームで、過去 9 回の優勝経験を有し、昨年度高知国体の覇者という強豪である。</p> <p>高円宮妃殿下が観戦の為、ロイヤルボックスに着席され、1P がスタートした。地元大応援団の声援で異常な盛り上がりの中、試合は一進一退の攻防が続く、試合が動いたのは、静岡の中盤のあたりが甘くなったところを冷静に読んだ、東京唐木が、自ら中央へ移動しミドルを決める。1P は、唐木が沈みながらも粘り、もう 1 点とり、2 - 0 東京リードで終わる。静岡は、ディフェンスを重視し無理をした攻撃は控え、ロースコアで試合を纏れさせ、少ないチャンスで勝負する、との戦法のような。そうした意味で、1P 失点を 2 点に抑えたことは、ますます評価でき、今後の展開に期待できる。</p> <p>2P も先取点は東京。唐木がフローターシュートで 1 点追加。こうした中静岡はキャプテン山住が粘りルーズボールを競りとってチャンスを繋ぎ、青島浩章が絶妙のループシュートを決めこれに答えた。続いて中盤での積極的なディフェンスからボールを奪ったところ、すかさず 1 年生の青島雄介が飛び出しノーマークをつくりゴール連取。試合を沸かせる。2P を終え、累計 3 - 2 で東京、1 点差となる。</p> <p>3P、優位にゲームを展開するもなかなか得点に結び付けられず、ペースに乗りきれない東京は、先取点をまたも唐木がゲット。この試合 4 点目の大活躍。東京としては、このまま引き離していきたいところ。しかし静岡は粘り、諦めない。ラスト 1 分で山住が中盤で退水を誘発し、自ら持ち込みシュートゲット。このピリオドを終え、累計で 4 - 3 と東京。</p> <p>静岡は最終 P、積極的にカウンターをかけ勝負にできるが、シュートが決まらない等、結果として東京町田、田中に逆チャンスを決められてしまう。この時点で試合時間は残り 2 分、東京の 6 - 3 となり、静岡は厳しくなった。但し、最後まで粘り強くディフェンスし、カウンターをかける静岡チーム。山住がカウンターで抜け出し、2 点を返し、1 点差に追い上げる。ラスト 13 秒静岡ベンチは、TO を取得し、望みを繋ぐが、東京の厳しいディフェンスの前に夢はならなかった。立派なゲームを見せた両者に観客の拍手は止まない。</p>	
記録者	峰岸 克行

水球競技速報用紙

ゲーム NO. 7 _____	会場 <u>静岡県立水泳場</u>
審判 1 _____	審判 2 _____
帽子の色 [_____]	帽子の色 [_____]
_____	_____
	E X
	P T
	-

<戦評> 広島は相手のオフェンスファールをカウンターに結びつけキャプテン長畑が先取点を奪うと、中盤からプレスをかけダブルチームでボールスチールし流れるようなカウンターでチャンスメイクする。システムチックなディフェンススタイルから攻防転換の判断も速い。

佐賀は泳ぎと身体能力の高さを活かして力強い攻防をみせる。佐賀の 1 点目はこちらもキャプテン原口が右サイドで回し込んで切り込みチャンスメイクし、センターの野口にアシストし見事にゲット。

しかしこの後広島のセンスが光る。中江が左サイドの角度のないところから GK 同サイドにシュートをバウンドさせゴール天井に突き刺すと、続いて 1 年澤村らが右サイドから振り向きざまにミドルシュート、佐賀 GK 意表をつかれる。この連続得点で広島は波に乗り 2 p も澤村が 10 m のロングシュートをコーナーにぐさり、残り 1' にも若宮がミドルを決め前半終了時点で 4 点差とする。佐賀は負けにくいぐらいのカウンターとセットからのドライブを見せるが、最後の決めのシュートがことごとく GK の正面をつき得点できない。

お互い疲れの見える 3 p、広島好調の流れは変わらず、パワープレー時に池尾が決めると、続く攻防でもハンツでサイドネットに突き刺し連続得点。3'08"には今日乗っている 1 年生澤村がゴール前混戦からゲットし 7 点差として勝利を決定づけた。その後はメンバーチェンジの余裕も見せゲームを楽しむかのような生き生きとした攻防を見せた。

佐賀は最後まで原口を中心に良く攻め、カウンターからのセットオフェンスも積極的に仕掛けシュートにつなげる。ここまでの展開には目を見張るものがあったが、放つシュートが呪縛にかかったように GK やクロスバーに阻まれた。相手退水のパワープレー時に 2 得点したが、最後まで流れを引き寄せることができなかった。

広島は県内のエースを集めた選抜チームであるが、インターハイ「修道 vs 佐賀東」のリベンジを果たしたかたちで、広島県の選手層の厚さを見せつけた。

記録者	南 部 健
-----	-------

水球競技速報用紙

ゲーム NO. _____	会場 <u>静岡県立水泳場</u>
審判 1 _____	審判 2 _____
帽子の色 [_____]	帽子の色 [_____]
_____	_____
	E X
	P T
<p>戦評：初日最終試合は、近畿ブロック滋賀県対東海ブロック愛知県の一戦。</p> <p>1 Pカウンター攻撃の流れの中で、愛知後藤、滋賀キャプテン清水がそれぞれ得点。愛知は、滋賀のポイントゲッター成田をケアしゴール前からの失点を無くし、カウンターを狙う。愛知は、1 P終了間際ゴール前で退水を誘発しチャンスを作るも、シュートが決まらない。逆に滋賀が速攻をかけ、成田がサイドからゲット。1 Pは、2 - 1 滋賀リードで終わる。</p> <p>2 P、序々に滋賀がペースを掴む。清水安治がフローティングシュートを決める。続いて、愛知ディフェンスがカバーに帰りきれない内に、成田がセンターポジションから追加得点。更にペースに乗った滋賀は、カウンターから相手マークミスを誘い、落合がゲット。このピリオド 3 点連取し、引き離しにかかる。一方たまりかねた、名古屋ベンチは、いったん流れを切るべく、TOを取得。愛知はその後、失点しなかったものの、このピリオド得点ができず、2 Pで 5 - 1 とやや引き離された。愛知は、自分たちの目指す水球である「泳いで攻める、泳いで守る」という原点に立ち返り、特に攻撃面で泳ぎの中からチャンスを作り、得点差を縮めていきたいもの。</p> <p>3 P 開始早々愛知はゴール前で退水をゲット。パワープレイでキャプテン矢野が決め 1 点を返す。愛知は連取して流れを作りたいが、やはり全体として泳ぎが止まってしまい、自分たちのペースを掴めず、良さを出せない。こうした中、逆に滋賀は一定の緩急ある攻撃で無理をせず、隙を見てカットインし、チャンスを作る。山口が中央の高い位置から豪快なミドル、中野がカットインシュートでそれぞれ得点し、3 Pを終え累計で、7 - 2 で滋賀がリード。この状況下では、5 点差は、滋賀にとってセーフティーリードとも感じるが、愛知にとっては、そうした気の緩みに付けこみ、最後のピリオド頑張ってもらいたい。</p> <p>4 Pも滋賀ペースは変わらない。成田がカットインをかけ、逆サイドからパスを受け、裏をかくループシュートで決めると、カウンターから、落合、中野がそれぞれこの日 2 点目の得点を重ね、このピリオドを 3 - 0 としゲームを終えた。累計得点は、1 0 - 2 で滋賀の勝利となった。</p>	
記録者	峰岸 克行

水球競技速報用紙

ゲーム NO . 9 _____	会場 静岡県立水泳場 _____
審判 1 _____	審判 2 _____
帽子の色 [_____]	帽子の色 [_____]
_____	_____
	E X
	P T
	-
<p>戦評 大会 2 日目、本日・明日は 1 回戦の激戦を勝ち上がった 8 チームが A・B ブロックに分かれ準決勝リーグに望む。勝敗はもちろんのこと、得失点差が今後の順位にかかわってくるので最後の 1 秒まで気の抜けないゲームとなる。両チームとも昨日のサバイバルゲームを大接戦の末制しており、ディフェンス力には自信を持っている同士、ロースコアのゲームが予想される。ミスが命取りになりかねない。お互いフローターケアのやや下がり目のディフェンスからカウンター狙いというオーソドックスなスタイルで立ち上がる。序盤に流れを引き寄せたのは福岡、中盤のコントロールタワー口石が左サイドで GK からのパスをうけると、相手 GK の戻りが遅いのを見てすかさずシュートし先制。しばらくの攻防後 3'41" には下がり目の外周で十分パスを交わし谷川が左 45 度から水面をすべるようなミドルシュートを決め 2 点のリードを得る。山形はフローターエースの庄司にボールを集めようとするが、集散の早い福岡ディフェンスに決定的なシュートを打たしてもらえない。しかし 2 p に入るとピンポイントの正確なパス供給からパワープレーチャンスを得、これを左サイドで菅原がハンズアップの手をかわしシュートし 1 点差とする。しかし福岡もカウンターから相手を押し込んでおいて谷川がミドルシュートで得点。前半終了して 2 点差のままである。3 p ここまで追いついておきたい山形は大きめのセットから粘り強くボールを回し、フローター庄司へパス供給する。福岡のディフェンスは前半に比べギャップを利用したカウンター重視のシステムに変化し、守りに入らず攻撃的に追加点を狙っている。カウンターの応酬になりやや福岡の泳力が勝りだしたころ 3 : 2 のノーマークから谷川が決め 3 点リードとする。ゴールの欲しい山形はセットのゾーンが広がったせいもあり庄司に決定的なシュートチャンスが訪れるが、福岡 GK 鬼本のプレッシャーとポストに阻まれここ 1 点が取れないじれた状況が続く。何とか点差を縮めて最終ピリオドを迎えたい山形は残り 48" で菅原が絶妙のミドルループシュートを決め 2 点差と追いつき最終ピリオドへ。チャンスはあるもののゴールラインを割れない状況に奥歯をかみしめる山形、追加点の欲しい福岡、お互い全力の攻防が続く。福岡は残り 3'27" で T O し指示を徹底する。しかし山形にカウンターが出てリードブレイクからの逆パスを庄司がうけゴールを狙う。しかしこれもまたポストに嫌われたため息が漏れる間もなくこの逆カウンターをしかけた福岡は口石が勝利を決定づけるゴールをあげ 3 点差とし残り 1'38" となる。リーグ戦ということで 1 点でも点差を詰めておきたい山形は、最後まで手をゆるめることなく攻防したが福岡も 1 点の重みはわかっており点差を詰めるに至らなかった。福岡まず 1 勝をあげる。</p>	
記録者	南部 健

水球競技速報用紙

ゲームNO. _____	会場 <u>静岡県立水泳場</u>
審判1 _____	審判2 _____
帽子の色 [_____]	帽子の色 [_____]
_____	_____
	E X
	P T
	-
<p>戦評：大会2日目第2試合は、東京都対埼玉県の関東同士の戦い。ブロックの予選会等で、お互いを知り尽くしているとは思いますが、全国大会の雰囲気にも呑まれることなく、自チームの持ち味を出した方が勝利を手にするだろう。</p> <p>1P、先手を取ったのは埼玉。東京カウンターへの1投目をインターセプトし、最後は浜田がゲット。続いて大貫が右サイドへカットインし、ループとワンタッチで2点追加。埼玉が3 - 0とゲームを優勢に運ぶ。東京としてはこの流れを何とか一旦止めるために、得点がほしいところ。そうした中、パワープレーで落ち着いてセットの中へパスをまわし、1年生大崎が1点を返す。更にラスト17秒で町田が右サイドでGKを引き付け、センターポジションにいる笹田がセンターリングをタップで押し込む。しかしながら、埼玉もすぐさま小山内が右奥サイドでマークを交わし、ねじ込む。1Pは4 - 2埼玉リード。</p> <p>2P東京は、お家芸の速攻を積極的にかける中で少しづつペースを掴みつつある。集中したディフェンスから埼玉のマークが甘くなったところ、唐木が右サイドから思い切ったシュートで決め先取点をとる。東京は、ゲーム運びが上手い埼玉に余裕を持たせないで、相手のセットディフェンスを敷かせる前、早い段階で勝負したいところ。両者の攻防が続く中、埼玉は、東京のマークチェンジが中途半端なところをすかさず、若松が得点。2Pは、1 - 1。累計で5 - 3埼玉リード。</p> <p>3P開始早々、埼玉大貫がカットインで切れこんで決める。続いて小山内へサイドからのセンターリングがあがりワンタッチシュートが決まる。これで埼玉はリードを4点に広げ、引き離しにかかる。東京も必死で追い上げる、町田が逆チャンスでノーマークになり落ち着いて決めると、カウンターで右サイドから田中がゲット、2点連取。更には退水取得後、積極的なクイック処理でまたも田中がゲット。3P、東京は1点差まで追いつく。</p> <p>4P、東京がどこまでチャレンジ精神を維持して攻めつづけられるかがポイントである。双方とも、先取点をとりたいところ。早々に決めたのは埼玉。パワープレーで鈴木がゲット。またも2点差とする。東京は、カウンター攻撃から、唐木、笹田を中心に2時攻撃でも粘り強く攻めるもののぎりぎりのところで得点には至らず。逆に埼玉の速攻で大貫にミドルを決められてしまう（残り約3分3点差）。このまま9 - 6で埼玉が逃げ切った。</p>	
記録者	峰岸 克行

水球競技速報用紙

ゲーム NO. 1 1	会場 静岡県立水泳場
審判 1 _____	審判 2 _____
帽子の色 [_____]	帽子の色 [_____]
_____	_____
	E X
	P T
	-
<p>戦評</p> <p>昨日のトーナメントをある程度余裕を持って勝ち上がった両チーム、双方のチームカラーの違いがどう出るか楽しみである。</p> <p>開始早々、センターボールをとった広島のエース中野が大きく振りかぶって放ったセンターラインからのロングシュートはバウンドしてゴール左コーナーに吸い込まれスタンドから歓声上がる。この直後の滋賀のファーストオフェンスはフローターエース成田にジャストパスが入りディフェンスをかわして見事なゲット、スタートから何かわくわくさせるゲームとなった。この後も広島は相手のマークミスから上司がゴールし先手をとる。その後はお互い落ち着いて攻防するが、双方にミスが目立ちターンオーバーの繰り返しとなりやや締まりを欠く。2 p、リードされた滋賀は右サイドカットインの引き戻しから得たペナルティに成田が P T を確実に決める。しかし広島もパワープレイから長畑が右サイドでバウンドをねじ込みまたリードする。それでも押し気味の滋賀は 3'14" に山口がハンツをきれいに決め、また同点として後半へ折り返した。</p> <p>滋賀は後半に入ってもパワーを持続させカウンターを繰り返す。防戦一方となる広島は G K 高原がフローターシュートや下がり目からの相手のミドルシュートに良く対応しゴールを死守している。これに応えたい広島フォワード陣だが滋賀の泳力と執拗なプレスディフェンスに阻まれ決定打が出ない。攻め入る滋賀だが前述のとおり広島必死の防御にゴールできずイライラが募る。最終ピリオド開始早々これまで広島の堅いディフェンスにゴールを割れなかった成田がドロップバックを含めたディフェンダー 3 人をかわして打ったクイックシュートが見事に決まりこのゲーム初めてリードする。3'07" にはここまで好プレーを続けてきた G K 高原からのパスミスカウンターに結びつけた滋賀が 3 : 2 のノーマークとなり、山口が落ち着いて決め 2 点差と突き放す。さらに 1'12" ターンオーバーからの戻りが遅いところにゴール前までパスをつなぎ成田がフロートからゲットし 3 点差として勝利を決定づけた。広島は残り 1 分余りを必死に追いつがるが、4' P T 覚悟、逆 T O 取得の捨て身の策も実らず追いつくことはできなかった。</p>	
記録者	南 部 健

水球競技速報用紙

ゲーム NO . _____	会場 静岡県立水泳場
審判 1 _____	審判 2 _____
帽子の色 [_____]	帽子の色 [_____]
_____	_____
	E X
	P T
<p>戦評：京都府対山形県のレベルの高い一戦。京都は、高い実力を有しながら、昨年の国体と本年インターハイでは1回戦で惜敗しており、その雪辱をはらしたいところ。一方の山形は、昨日強豪鹿児島を倒し、勢いに乗っている。ただ、本日は既に、第一試合で福岡と激戦の未惜しくも破れており、2試合目となることが若干、影響するか...。</p> <p>1P、京都は持ち味のプレスディフェンスからのカウンター攻撃を中心に泳ぎまくる。京都ペースの中、本田、格谷、芝山がそれぞれ得点、3 - 0とゲームを優勢に進める。山形は、京都のペースに翻弄され、自分の水球がなかなかできない、それでも意地でラスト1秒奈良崎が決める。1P 3 - 1で京都。</p> <p>2P一進一退の攻防の中、山形にも粘りが出てくる。菅原社大が決め、1点差に追い上げる。これに対して京都は、本田、渡辺が決めまたまたリードを広げ、3点差とする。山形も意地でキャプテン中島がディフェンスの隙をついたカットインで取り返す。更に庄司がゴール前で退水を取ってチャンスを作るも、惜しくも得点にいたらず。2Pは2 - 2のイーブンとなる。山形は、後半振り出しに戻ったつもりで、ディフェンスに集中・我慢した上で、チャンスを活かし勢いに乗ることができるかがKeyとなる。3Pは、勝負のピリオドとなるであろう。</p> <p>3Pやや疲れが出たか、山形の攻撃が停滞してしまう。中途半端なパスを狙われ、ターンオーバーすると、京都渡辺が狙い、トップ抜けで得点。続いて、渡辺が打ったシュートのルーズボールを笠井が押し込み2点を連取。一方山形は、庄司がフローティングポジションで粘り退水を取り菅原剛が決める。その後京都本田、山形奈良橋が1点ずつ加点し、3Pも4 - 2で京都がとった。累計で9 - 5、京都がリードを4点に広げた。</p> <p>山形は4P早い段階で2~3点を連取し、点差を縮めなければ勝利は難しい。しかしながら逆に京都渡辺が先制。京都の怒涛の攻撃が続く。山形GK小玉は続けて、1 - 1の勝負を好セーブ。このプレーに山形菅原社大が答え、ゲット。この時点で残り4分。京都の執拗な攻めは続き、最後に本田が駄目押しの、この試合4点目をたたき出し、11 - 6で京都が勝利した。</p>	
記録者	峰岸 克行

水球競技速報用紙

ゲーム NO . 1 3	会場 静岡県立水泳場
審判 1 _____ 審判 2 _____	
帽子の色 [_____]	帽子の色 [_____]
- - - E X - - P T - -	
<p>戦評 三重は予選トーナメント大勝して勝ち上がりこれが準決勝リーグの初戦となる。福岡は午前中のゲームで山形から 1 勝をあげ波に乗りダブルヘッダーへ向かう。</p> <p>両チームともガチガチのマンツーマンで真っ向勝負の様相。三重はポイントゲッターの菅野と 1 年生山中がからんでゴール前のスクリーンプレーでチャンスメイク。福岡は堅牢なディフェンスからカウンター、セットは山方をセンターに据え谷川がミドルを狙う。序盤は福岡のカウンターと三重のテクニックがぶつかり合う。ピリオド前半は福岡のスピードが増さりカウンターから口石がループ、パワープレー時に山方がゲットしリードする。ピリオド後半になると今度は三重がカウンターから石川、フロートして山中がバックシュートで決め追いつく。2 p も同じような展開で山方がゴール前で見事なバックを決め、続いて谷川がカウンターからミドルシュートを突き刺す。これが後半になると三重ゲームセンスが活き、石川がカウンターから右サイドを抜くと続いてセンスの光るループで同点とする。続く攻防ではカウンターからの流れを活かして投げたファーポストのセンターリングを溝上が右サイドで決めてとうとうリードを奪う。お互いきついプレスディフェンスにオフェンスファールがやや多くなりターンオーバーが続く。3 p に入ると泳ぎ合いせめぎ合いの繰り返しでやや攻防が単調となる。機を見た福岡は T O でブレイク、メンバーをリフレッシュして対応するが、逆に三重のセットで今大会当たっている 1 年山中が爆発するようなバックシュートをたたき込み 2 点差として最終ピリオドへ。4 p 開始早々に福岡：口石が右サイドからループシュートを決めると、お返しとばかりに三重：石川が左 4 5 度からループで応酬。激しい攻防が約 3 分、息をのむシーンとため息が入り乱れる。しかし福岡は 2'57" ひねり出すようにカウンターをかけた古館が正面から決めて 1 点差につめる。ここで三重は落ち着きを取り戻すために T O、後の攻撃でスクリーンから抜けた石川が絶妙のループシュートを放つがポストに落ちて届かない。この機を逃さず福岡が仕掛けたカウンターに思わずエクスクルージョンを犯した三重、すかさず福岡は T O からパワープレーを攻めキャプテン谷川の G K 脇下を抜く同点シュートがネットを揺らした。お互いに欲しい「あと 1 点」を争った残り 5 3 秒であったが決定打が出ず引き分けに終わった。最後までスタンドを巻き込んで力の入ったゲームであった。</p>	
記録者	南部 健

水球競技速報用紙

ゲームNO. _____	会場 <u>静岡県立水泳場</u>
審判1 _____	審判2 _____
帽子の色 [_____]	帽子の色 [_____]
_____	_____
	E X
	5
	6
	P T 3 - 1
	5 - 1
	5

戦評：本日の最終試合は、埼玉県対広島県の対戦。

1P、カウンターへの掛け合いから、先制したのは埼玉鈴木。続いて、ゴール前を狭くする若干引いた、広島ディフェンスに、大宮が積極的にミドルシュート。更にカウンターから浜田、パワープレーで大宮が得点。そして大貫は、自ら左サイドから回しこみ、持ち込んで得点。埼玉の勢いある全員攻撃、厳しい攻撃的なディフェンスの前に、広島はなかなかいいところがだせない。セット攻撃もやや単調になりがちであり、このあたりが課題といえる。

広島は大柄のゴールキーパー高原が好セーブを見せている。

埼玉は、このペースを崩さず終始優位にゲームを展開し、1P5 - 0、2Pは、若松、長沼、浜田、石川等の得点により、6 - 0、と2P累計で11 - 0と引き離す。ややワンサイドの展開となる。広島は、粘り強くボールを展開しメジャーファールを誘発する等、なんんとか攻撃でシュートまで繋げたいところ。

3P、4Pも埼玉の優勢は変わらない。若松、長沼、大宮、大貫、鈴木がそれぞれ得点を重ねる。一方の広島は、「点を取りたい」という執念を感じる。3P約4分経過、一瞬引き気味になった埼玉ディフェンスの隙をみて、広島1年生澤村が思いっきりのいいミドルシュートを決めた。さらに、4Pにも、キャプテン長畑が、右からの絶妙なパスに素早い、ハンドツーハンドで2点目をゲット。また、中野がいい感じでワンタッチシュートを試みるも、GK真正面で得点にはならず。広島は、13名中8名が2年生以下という若いチームであり、今後更に練習を重ね、飛躍することを期待したい。最後まで諦めずに戦った姿勢は高く評価されるべきである。

この試合、累計19 - 2で埼玉が危なげなく、勝利を収めた。

来季国体開催地である埼玉は、今日東京・広島を下し、来季国体第1シードがかかる「優勝」への階段を一つ一つ着実に昇っている。

記録者	峰岸 克行
-----	-------

水球競技速報用紙

ゲーム NO . 1 5	会場 静岡県立水泳場
審判 1 _____	審判 2 _____
帽子の色 [_____]	帽子の色 [_____]
_____	_____
	E X
	P T
	-
<p>戦評</p> <p>準決勝リーグの 2 日目を迎え、順位決定に向け大事な試合が続く。ハードゲームの連続に、ダブルヘッダーへの対応も気になるところである。</p> <p>両チームともややゆっくりとした立ち上がりながら、ここの一番のカウンターのスピードにはやはり一級品の風格がある。滋賀はいつもとおりセンターに成田を据えセットを組むが、状況に応じて清水がポイントをとりディフェンスミスマッチを狙う作戦。東京はやや下がり目のディフェンスからお家芸のカウンター、セットは主に唐木をフローターとして組む展開。滋賀はキャプテンの清水がカウンターからノーマークとなりポストにはねられながらも G K の背に当たりゴールするラッキーで先制すると、これもカウンターからの流れでフリーとなったところでカーブをかけたミドルループ、つぎにはフローターに浮いて見事な身のこなしでゴール、一人で 3 連続得点して波に乗る。東京は滋賀の中盤からの激しい競り合いに苦しめられながらもゴール前までボールを運びシュートまでは至るものの、難しい角度や詰めのシュートの制度を欠きゴールを割れない。G K を棚村に変えて 2 p をスタートした東京は 4'27" に町田が得点し巻き返しにかかる。相手退水時に T O し大事な 2 点目を是非ものにしたかったが思うようにならず、3 点差で後半へ突入する。東京は小刻みなメンバーチェンジでパワーを維持しながらのゲーム運び、しかしシュートポジションまで持ち込むものの最後のシュートが素直すぎて惜しいところで得点できないことが多い。片や滋賀は序盤にあげたリードを守りながら落ち着いたゲーム運びで要所を占める。山口のハンツースhoot、落合の左サイドのカットインプレー、とどめはエース成田のゴール前の動きにスルーパスをとおしゲット 3 点を加点して逃げ切った。東京は田口がゴール前の混戦から、4 p には木村が右 4 5 度からの 9 m ロングシュートを見事に決める。終了間際にもパワープレイを笹田が決めて気を吐くが、最後まで追いつくことができなかった。個々の持つ基礎的なパフォーマンスは、滋賀が勝っていたように感じた。</p> <p>滋賀はこれで 2 勝とし、午後の埼玉とのマッチに決勝進出をかけて望むことになる。</p>	
記録者	南部 健

水球競技速報用紙

ゲーム NO. _____	会場 <u>静岡県立水泳場</u>
審判 1 _____	審判 2 _____
帽子の色 [_____]	帽子の色 [_____]
_____	_____
	E X
	P T
	-
<p>戦評：準決勝リーグ混戦のAブロック、京都府対福岡県のカード。両者にとって、決勝進出に向けて極めて重要な一戦となり、レベルの高い好ゲームが期待される。</p> <p>1 P、福岡は厳しいディフェンスからの猛カウンターで京都を揺さぶり、ゲームをリードしていこうと、しかし京都も1歩も譲らず。両者一進一退。京都の粘りある2次攻撃に対して、福岡GK鬼本は落ち着いた動きで、ルーズボールにも安定したすばやい反応でセーブ、ゴールを割らせない。先取点は福岡後藤。しかし、すぐさま京都も芝山が右からの鋭いシュートで返す。更に京都はカウンターをかけ、福岡の効率的なマークチェンジにも、落ち着いたパス回しでかわし、最後は渡辺がゲット。1 Pは2 - 1で京都。</p> <p>2 P、京都本田がパワープレーから得点。追いつきたい福岡は、連続して退水を取られてしまう。これも厳しい攻撃的なディフェンスには一定のリスクであり、ここは我慢して乗り越えたいところ。一方さすが京都は、こうしたチャンスを確実にものにする。パワープレーで渡辺が得点、2点を連取し、突き放す。2 P累計で4 - 1京都リード。福岡は、京都の厳しいディフェンスの前に、持ち前のカウンターでシュートまでさせてもらえない。その後の2次攻撃は、逆チャンスのケアもあり、山方を中心に少ない人数で勝負を試みるがなかなか上手く機能しない。</p> <p>3 P先取点は京都格谷。カウンターから抜け出し大事な追加点をゲット。福岡は何とか1点とって、ペースを掴みたい。福岡ベンチはタイミングよくTO取得、「おい、肩の力を抜け！」と。この直後、セット攻撃でクロスをかけて後藤がきっちりミドルを決めた。続いて福岡は攻撃的な仕掛けで退水を誘発し即シュートするも惜しくもコーナー。しかしパワープレーから関がゲット。3 Pは2 - 1で福岡が取った。累計で2点差となり、後半の粘りはこれまでの戦いで実証されている福岡、まだまだわからなくなってきた。</p> <p>4 P、30秒経過時京都が攻防の切り返しで退水、ここで勝負をかけた福岡2回目のTO取得。しかし京都のトップあたり気味のゾーンディフェンスにサイドーサイドの長いパスをミス、得点には至らず。その後、京都は格谷、白崎（ペナルティー）と得点。福岡は厳しくなった。福岡は、最後、カウンターから古館がループを決めるが、もう時間はない。京都は、試合巧者ぶりを発揮し、7 - 4で勝利した。</p>	
記録者	峰岸 克行

水球競技速報用紙

ゲーム NO. _____	会場 <u>静岡県立水泳場</u>
審判 1 _____	審判 2 _____
帽子の色 [_____]	帽子の色 [_____]
_____	_____
	E X
	P T
	-

戦評 8月のインターハイ準優勝校である山形工業高校単独チームの山形、選抜チームのように補強の利かないハンディをチームワークでカバーする。逆に三重は選抜の利点を活かしてかなりのパフォーマンス向上を果たしている。今日のダブルヘッダーの結果如何では決勝戦に進める可能性があるだけに気の抜けない1日になりそうである。また、リーグ戦の順位決定方法により得失点差もからんでくることも予想しておかねばならない。緊張感の漂うゆっくりとした立ち上がりから大事に攻防を繰り返す両チーム、このゲームの重要さをわかっているようだ。山形は菅原（社）パワープレー時に先制点をあげる。三重も菅野がパワープレーを制して追いつく。三重は2pからGKを田中（佑）代えて対応をはかる。個人技に秀でた選手の多い三重であるが、シュートに硬さが見られゴールの枠に飛ばないことが多い。今大会好調だった1年生山中のフロートシュートもクロスバーの上を通過する。大事に攻める山形は庄司がフロートから、菅原（社）が相手退水から速攻で決めて2点リードする。それでも三重は石川がゴール前でうまさを見せ1点差として後半へ。追いつきたい三重、どうしても肝心なところでシュートが決まらず地団駄を踏む。山形もパワープレーチャンスに逃すなど足踏みをしていたが、またも菅原（社）が退水時を制しリードする。しかし三重は山中がリバウンドボールを押し込み1点差とすると、残り13"にはカウンターで抜けて1年の田中（大）が同点ゴール、ゲームを振り出しに戻す。俄然勢いづく三重は4pに入ると山形のシュートタイミングをことごとくカウンターに結びつけチャンスメイク。石川が個人技を見せ右サイドを回し混みから切り込んでGKをかわしてゴールし、残り3分でとうとう逆転する。是が非でも1勝が欲しい山形は1'37"にTOで指示を与えると、これに応じて退水を誘発させこのチャンスを菅原（剛）が決め同点とする。ラスト1分の鐘が鳴り、三重のセットでセンターをとった山中が見事なフロートシュートを決めすぐさまリードを取り戻す。残り44"の攻防、山形のシュートはポストをたたくがこぼれ玉を安達が拾ってゴールへ押し込み、残り20"でまたもや同点。当然TOでセットから再開の三重であったが、サイドへのパスを出足良くインターセプトした山形、今度は14"を残してTO。いやいやしかしこの攻撃も三重は集中してボールを奪い返し、8"で三重TO、再開はスクリーンからエース石川の手にパスがとおりシュート！しかしクロスバーに阻まれたボールはゴール前に落ちる。これをまた拾ってシュートに持ち込むが、山形GK小玉が渾身の力を込めた指先でボールをはじき出す。大歓声でタイムアップのブザーがかき消されるほど好プレーの連続であった。TO(タイムアウト)の面白みを堪能したラスト20秒であった。

記録者	南部 健
-----	------

水球競技速報用紙

ゲーム NO. _____	会場 <u>静岡県立水泳場</u>
審判 1 _____	審判 2 _____
帽子の色 [_____]	帽子の色 [_____]
_____	_____
	E X
	P T
	-
<p>戦評：本日の第 4 試合は、準決勝リーグ B ブロックの 1 位、即ち明日の決勝進出チームを決める戦いとなる、埼玉県対滋賀県の対決。</p> <p>1 P 5:36 埼玉はリズムのよいパス回しで、センターポジションにいる大貫へ繋ぎ、寝返りシュートで先制。滋賀は、前半無理な攻撃をやめ、埼玉のカウンターを封じ、ロースコアに持ち込むとの戦術であろう、埼玉のプレスの前にやや押し出され気味。もう少しボールを先行させ、センターの成田または清水へ繋ぎチャンスを作りたいもの。</p> <p>2 P も埼玉大貫がフローティングでゲット。これで埼玉 2 - 0。それでも滋賀は、埼玉の攻撃をしつこいディフェンスで防ぐ。滋賀 GK 湯本もゴール前の 1 - 1 をセーブする等、安定感を見せている。こうした中、埼玉は、滋賀の「ゆっくりペース」に戸惑い、いつもの運動量ある水球がなかなかだせない。</p> <p>3 P に入っても、滋賀のマイペースの試合運びに、埼玉は自チームの良さをだせず、苛立ちだす。滋賀はこの状態で少ないチャンスをものにして、ペースを掴みたいが、チャンスはあるものの得点に結びつけることができない。両チームとも詰めが続き、ミスが続く。</p> <p>こうした状況下では、最初に得点した方が、ペースを掴む可能性が高いが、3 P はこのまま両者無得点で終わる。4 P が勝負となる。両者とも先取点が重要。埼玉が先制すると埼玉優位。一方、滋賀としては、先取点はもちろん、連取するつもりで、カウンター & 2 次攻撃と積極的に仕掛けていきたい。ここまで埼玉相手に「失点 2 点のみ」は高く評価されるものの、逆に攻撃的には余りいいところが出ていないことが気になる。</p> <p>4 P 先制したのは滋賀、カウンターからエース成田がゴール右へ押し込む。しかしながら、埼玉は、滋賀の連取を阻止し、大貫が返す。更に滋賀の必死なディフェンスの中、ポイントゲッター 小山内がゲット。こうなると地力ある埼玉はリズムを徐々に掴み、浜田慎平、浜田卓がそれぞれ得点し、引き離す。その後、滋賀は、清水がゴール前で粘り押し込み、上から山口が決め、2 点を返すものの、この時点で残り時間 1 分を切っており、勝負あった。</p> <p>4 P 4 - 3 埼玉で、累計 6 - 3 埼玉が明日の決勝進出を決めた。</p>	
記録者	峰岸 克行

水球競技速報用紙

ゲーム NO . 1 9	会場 静岡県立水泳場
審判 1 _____	審判 2 _____
帽子の色 [_____]	帽子の色 [_____]
_____	_____
	E X
	P T
	-
<p>戦評：少しでも上位に行くためには勝たねばならない試合。広島は得失点差の関係から引き分けでは下位が決まってしまうため、是非とも勝利したいところである。</p> <p>広島は中江のフロートで退水を誘発し上司が速攻で決めて先制点。これまでと同じ緊張感の中にもゲームをエンジョイしているかのような仕草でガッツポーズ。その後はお互いシュートの制度を欠き得点できない。広島 G K 高原の好セービングも光っていた。</p> <p>2 p 東京はいつもとおり早めのメンバーチェンジでパワーの温存と 13 名の個性を活かし機能させる。東京の爆発はここからだった。まずシュートリバウンドを拾った唐木が左サイドの角度のないところから放ったパワーシュートが G K の頭上を抜くと、パワープレーの同じ左サイドからこれまたスピードあるシュートを決め、3'28"にもパワープレー左 45 度からバウンドシュートを打ち込み唐木のパワー爆発で一気に 3 連取、一気に逆転する。その後も金森が右サイドから G K の手をはじきながらもゴール、1 年の大崎も右サイドでゲットしリードを広げ、ピリオドタイム寸前にもパワープレーチャンスにキャプテンの中島が得点しこのピリオド 6 点をあげて大量リードを奪う。</p> <p>しかし 3 p に入り広島も息を吹き返す、長畑がフロートしバックシュートをねじ込み追いつがる。このあとカウンターでノーマークが出て広島に絶好の得点チャンスが生まれるが、前線へのパスが頭に当たり相手ボールとなる。これを逆チャンスとした東京は町田がシュートを決めて突き放しにかかる。形勢不利の広島は G K を辻井に代えディフェンスの修正をおこない好セーブを連発するが、澤村が 3'43"に得点した以降はぱったり広島のゴールが遠ざかってしまった。</p> <p>このあとは東京ペースの一方向的な展開となり田中や唐木がパワープレー時に、小原もワンタッチシュートで、木村はリレーシュート気味のワンタッチシュートを含め 2 連続得点、ゲーム終了間際には川村がカウンターから抜け出してノーマークシュート。広島は高崎が残り 49"にミドルシュートで得点したが、終わってみれば 4 - 1 3 の大差を付けて東京が勝利した。</p>	
記録者	南 部 健

水球競技速報用紙

ゲーム NO. _____	会場 <u>静岡県立水泳場</u>
審判 1 _____	審判 2 _____
帽子の色 [_____]	帽子の色 [_____]
_____	_____
	E X
	P T
<p>戦評：準決勝リーグの最終試合，京都府対三重県の対戦。京都は引き分け以上，三重は勝利すれば、それぞれ決勝進出を決めるという，お互い重要な試合となった。</p> <p>1 P、三重は並々ならぬ気合のもと、センターボールを奪い攻めこむが京都の激しい競り合いにボールを奪われ、逆に速攻を受けてしまう。この後も「いっきに行こう」とばかり，京都は、持ち味のディフェンスからの速攻を披露。格谷、筈井、芝山が得点重ねる。これに対して三重は、流れに乗れず、なかなか攻めきることができない。こうした中、やっとパワープレーから真金が上からゴールを突き刺し、1点を返した。しかし、京都の勢いは止まらない。ゴール前で退水を誘発させ、パワープレーで白崎がすぐ返す。くいさがる三重は、1 P 終了間際菅野がゴール前で踏ん張り退水を誘発，京都一人退水のまま 1 P タイムアップ。1 P 4 - 1 で京都がとった。</p> <p>2 P、三重はセンターボールを確保，京都退水中の為、三重ベンチは TO を取得。1 点返し、反撃ののろしを上げようとするが、得点には至らなかった。逆に「流れは変えさせない」とばかり，京都もすぐ、パワープレーで、上から白崎がゲット。更に柴山が泳ぎ込みディフェンスを背負って，パワープレー左サイドから格谷がそれぞれ得点を重ねる。三重も諦めず菅野が、ゴール前の高い位置，横へスライドし、いいタイミングで鋭い寝返りシュートを決めた。2 P 3 - 1 京都、累計 7 - 2 で京都。</p> <p>3 P 両者一進一退の攻防が続く。三重は、キャプテン石川がパワープレーでゴール。引き続き得点を重ね、点差を縮めたいところ。三重は諦めず粘りの攻撃をみせるが、京都は大きなミス等なく崩れない。そして、ラスト 1 分、1 人多い状況で落ち着いてパスを回し筈井が 2 点をとり、3 P を終え、9 - 3 で京都。京都にとってはセーフティーリードとなった。</p> <p>4 P も京都は集中している。退水時、白崎が上から決めこのピリトも先制。三重は菅野が意地で自らボールを保持しつつ、マークをフェイント，キーパー頭上を抜く綺麗なシュートを決めるが、反撃もここまで。その後も京都は、永野、榎本がゴールを追加。4 P も 3 - 1 で京都がとった。最後まで、集中を切らず攻めきった京都が三重に付け入る隙を与えず、1 2 - 4 で勝利し、決勝進出を決めた。</p>	
記録者	峰岸 克行

水球競技速報用紙

ゲーム NO. _____	会場 静岡県立水泳場
審判 1 _____	審判 2 _____
帽子の色 [_____]	帽子の色 [_____]
_____	_____
	E X
	P T
<p>戦評：7・8位決定戦は、山形県対広島県の一戦。</p> <p>1 P 開始5分は一進一退の攻防が続いた。先制したのは、広島澤村。1:47、若干甘めの山形ディフェンスを躊躇せず、思い切ってミドルを決めた。これに勢いづいて、キャプテン長畑も「ここしかない」という右サイド上を上手く抜く見事なシュートを決め続き、1 P は広島2点リードで終える。</p> <p>2 P に入っても、引き気味の広島ディフェンスに山形はリズムが掴めない。広島は、G K がミドルシュートに強い利点を活かし(この大会、ミドルシュート11本中8本のセーブ)、ゴール前からの失点を第1にケアした布陣。広島は、5:10、ゴール前で長畑がゲット。更に山形のマークチェンジが遅れる隙に、上司が左サイドから決める。一方、山形は庄司が厳しいマークの中、やっと1点を返し、2 P を終えた。広島としては、このリズムを維持するために、ディフェンス時の集中と、攻撃時はボール先行を心がけ、攻撃する気持ちを最後まで維持することが重要だ。一方、地力ある山形は、運動量が多く、力強い自分達の水球を早く取り戻してペースを掴みたいもの。</p> <p>3 P、なかなかチームのリズムが合わない山形は、折角庄司がゴール前で退水を誘発するもパスミスでみすみすボールを奪われてしまう。このチャンスを広島はカウンターで早めにシュート、コーナーとし、チャンスを繋ぐ。このチャンスで上司がきっちりゲット、4点差とする。山形は菅原社大が意地を見せゴール、更にパワープレーで同じく菅原社大が追加。反撃の狼煙を上げる。しかし、広島もG K 高原を中心とした、チームディフェンスで執拗な山形の攻撃を凌ぐ。3 P を終え、広島2点リードとなる。</p> <p>4 P、広島がセンターボールを取り、トリッキーな攻めを見せ、流れをつくった。開始直後潜った澤村は、山形ディフェンスをかわし一人抜けを作り、落ち着いて決め、3点差に広げる。これは、結果として追い上げようとする山形の気持ちを削ぐ、極めて有効なアタックとなった。山形は懸命に攻撃するも「あせり」からか最後の詰めでミスがでてしまう。その後も広島は攻める気持ちを失わず、カウンターで中野、間野がそれぞれ決め、差を広げ勝利をほぼ確実のものとする。山形は、庄司が一本返すがここまで。広島の「勝ちたい」という強い思いを感じた試合であった。これで広島が7位となった。</p>	
記録者	峰岸 克行

水球競技速報用紙

ゲーム NO . 2 2	会場 静岡県立水泳場
審判 1 _____	審判 2 _____
帽子の色 [_____]	帽子の色 [_____]
_____	_____
	E X
	P T
	-
<p>戦評：(財)日水連科学研究班のデータ(ここまでの4試合)によると、三重と東京の大きな違いはG Kのシュート阻止率である。三重シュート28本中8本阻止：阻止率28.6%に対し、東京46本中28本：60.9%である。一概にデータだけでは言い切れないがG Kのできが一つのポイントになり得ることが予想される。</p> <p>1年生ルーキーの活躍が目立つ今大会、東京はスタートから1年G K棚村を起用、内田監督の策は如何に？先取点はこちらも三重の1年山中がゴール前でファーポスのセンタリングをうけゲット。東京もパワープレー右45度からこれも1年大崎がG Kの面脇を抜いてゴール。お互い攻防の転換も早く息もつかせぬ攻防が続く。三重は相手G Kのハードアタックで得たパワープレーを菅野が決め、ピリオド終了間際には石川がディフェンダー2人を振り切って技ありのゴール。2p東京はカウンターから2：1のノーマークとなり逆に振って唐木が得点。このあと三重の館監督が判定に対するクレームで退場となり、川口コーチが代行する事になる。このアクシデントにも動じない三重はカウンターからトップ抜けノーマーク、東京G K棚村がこれへのロングパスをタックルに飛び出し阻止したがハードアタックで退水となる。このチャンスを石川が確実に決め三重2点リードで後半へ。三重の個人技に東京は総力戦で挑む、どうしてもエクスクルージョンが多くなる。数回の攻防のあと東京の1年ルーキー町田が鮮やかなミドルシュートで1点差に詰めると、再三の退水ピンチもG Kを中心とした全員ディフェンスでゴールを死守する。それでも三重は34"このピリオド3度目の退水チャンスを菅野が決め追従を許さない。最終ピリオド、東京は大崎からのアシストをうけて笹田がワンタッチシュートで決める。三重も負けじと溝上がゴール前を制してG Kの頭上を抜くシュートを決める。東京も笹田がゴール前で退水を誘発そのままゴールに押し込みまた1点差。しかし三重は踏ん張り、石川がファーポストへのカットインからピンポイントパスをうけてシュートしG Kの手をはじいてゴールに押し込む。なかなか追いつけない東京はターンオーバー時におこった退水にT Oし落ち着いて攻め、パワープレー崩れの流れを活かし唐木が左サイドから強烈なシュートで1点差とすると、58"にはまた唐木が見事なフローティングシュートを決めとうとう同点となる。ラストの攻防は三重がパワープレーチャンスを得る。T Oし大事に攻めるが東京またもや全員ディフェンスでこれを守りきる。すかさずカウンターが出て逆転の期待が高まり場内騒然となるが、タイムアップのブザーは待ってくれなかった。</p> <p style="text-align: right;">この結果同点引き分けで両チーム5位を分けることとなる。最後まで見所の多い好ゲームであった。</p>	
記録者	

水球競技速報用紙

ゲーム NO. _____	会場 <u>静岡県立水泳場</u>
審判 1 _____	審判 2 _____
帽子の色 [_____]	帽子の色 [_____]
_____	_____
	E X
	P T
	-
<p>戦評：3位決定戦，福岡県対滋賀県の一戦。</p> <p>1 P 先制は福岡。慎重にゴール前へボールを運び、フロッター山方が退水を誘発。パワープレー，左からループで古館が決める。一方滋賀は、山口がフローティングシュート，更にゴール前で中野が右サイドへ引き付け、逆サイドで同サイドポジションをキープする清水へパス，押し込む。それぞれ得点し、1 P は 2 - 1 で滋賀。</p> <p>2 P 福岡は、パワープレーで上手く中を使い，後藤がゴール。更にカウンターから滋賀のフェイントマークを落ち着いてフリーの後藤へまわし、ゲット。福岡は、序々にペースを掴み、今度はキャプテン谷川が相手 G K 一瞬の間を見て、ミドルを決める。これで3点連取し、逆に福岡2点リードとなる。くいさがる滋賀は、ゴール前で中野が返し、福岡の1点リードで2 P を終える。</p> <p>3 P は、両者の激しい攻防が続くものお互い得点には繋がらない。両者とも厳しいディフェンスでゴールを割らせない，我慢のしあいである。両 G K，福岡鬼本、滋賀湯本は安定しており、両チームの攻撃的・組織的ディフェンスを支えている。この大会、両者ともセーブ率は65%以上とという高成績となっている。</p> <p>4 P、1点差であり、勝利の女神はどちらに微笑むか。</p> <p>この均衡した状況下で先制したのは滋賀。右からキャプテン清水がループでゲット。これで試合は振り出しに戻る。この時点で残り時間は5分。更に滋賀はこの後直ぐ、退水を得る。落ち着いたパス回しから左サイドの成田がクイックでゴールし、再逆転（残り時間4分）。福岡は、勝利を信じ、怒涛のカウンターをかけ、退水を誘発，T O を取得し先ずは同点確保を狙うが惜しくも失敗。更に福岡はラスト23秒で再度T O を取得し、残り18秒では退水をゲットするも、執念の滋賀ディフェンスの前に最後のシュートは、ラスト1秒を残しコーナースロー。このままタイムアップのブザーが鳴り、5 - 4 で滋賀県が逃げ切り3位を勝ち取った。</p> <p>両者とも勝利を信じ最後まで貪欲によく戦った。両チームの監督・コーチ・選手に対して心から敬意を表す。</p>	
記録者	峰岸 克行

水球競技速報用紙

ゲーム NO. _____	会場 <u>静岡県立水泳場</u>
審判 1 _____	審判 2 _____
帽子の色 〔 _____ 〕	帽子の色 〔 _____ 〕
_____	_____
	E X
	P T
	-
<p>戦評：科学研究部のデータ(これまでの4試合)によると京都の総シュート数72本中34ゴール決定率47%、埼玉は90本中45ゴール50%でやや埼玉の得点能力が勝っている。違うのは退水の奪取数である京都14に対し埼玉5と、機動力重視の京都と個人技重視の埼玉、それぞれの特徴がデータに現れている。この辺がゲームにどう影響するかも見物である。</p> <p>序盤から埼玉の個人技が圧倒する。先制点こそ勘違いパスミスで京都(格谷のノーマークゴール)に奪われたものの、大貫が一人でカットインしディフェンスをかわしてミドルシュート、石川がフロートしてゴール、大貫は右サイドから7m FTシュートで3連続得点しあっさり逆転。この勢いは止まらず鈴木がカウンターの流れから正面でハーフループ気味のミドルで決め、大貫がパワープレー右上から力のあるバウンドシュートを決める。京都はいつもの鋭さがやや影を潜めている、セーブしているのか？しかし渡邊がフロートしてセットを落ち着いて攻め、退水を奪うと中で渡邊が得点、この後もパワープレーを芝山が決めて詰め寄る。3pに京都が3回のパワープレーチャンスシューミスなどで決められなかったのが気になる。後半にはいると京都が流れを引き戻す。メンバーチェンジで埼玉のスタメンが休んでいる内に、本田がカットインすると格谷が本田の左手にジャストスルーパスこれを決めて1点差、続く退水ピンチを守りきり逆に退水をもぎ取った京都は右サイドで引きつけてセンタリングし中の芝山がきれいにタップして同点に追いつく。このあと双方とも我慢のプレーが続くが、3p終了30"前に浜田(卓)のハーフライン付近から狙いすましたロングシュートがゴール左隅に決まり埼玉リードで最終Pへ。ここから京都の猛攻が始まる。機動力をフルに使って退水を奪う、フロートからシュートと埼玉ゴールに迫るが、埼玉もGK杉山中心にゴールを死守。埼玉はパワープレーチャンスにTOして攻めるが京都は必死のディフェンスでこれをしのぐ。逆にカウンターからディフェンスを背負って笹井が持ち込みしぶとくゲットし同点にすると、2'07"パワープレー右45度から渡邊が決めてとうとう逆転する。優勝へ向け意気上がる京都であるがまだ終わらない。埼玉は1'18"浜田(慎)がカウンターからカットイン、マークを振り切りGKをも抜いてゲット、再び同点となる。両チーム「チャンピオンは俺だ!」とばかり必死の攻防となり、11"埼玉TO、5"京都TO、2"には埼玉FT妨害で大貫退水と最後まで息の抜けないシーンが繰り返されたが、決定打なくタイムアップとなった。</p> <p>試合後のプールセンターで両チームの選手が円陣を組みエールの交換と共にキャップを投げあげたシーンは、爽やかなスポーツの感動を締めくくるにふさわしい場面であった。また、ゲームにはもとより審判の偶然のパフォーマンスにも拍手を送りフェアに大会を盛り上げてくれたサポーターにも感謝である。両チーム優勝!おめでとう!</p>	
記録者	南 部 健